議事録（概要版）＜県産木材の安定供給に関する意見交換会＞

日　時：令和３年６月９日（水）13:30～16:00

場　所：宮城県行政庁舎２階　講　堂及び Web 会議併用

議　　事

(1)宮城県の木材需給の動向について

（資料１を林業振興課長より説明）

(2)輸入木材の不足等による影響について

１）流通分野からの主な意見

・これまで経験の無いような，急激な価格上昇により，仕入れや在庫の確保に苦慮している。
・東北地方は雪の影響等により，首都圏よりも３ヶ月程度遅れて価格等の変動が起きている。
・無い物高により，首都圏での相場の上昇は想像がつかないほど急激。激化。
・西日本では国産のスギ丸太も急激な値上がりをしている。
・最悪な場合,『木材離れ』といったものにも危惧している。
・少ない輸入材と国産材の適材適所の供給を続けている。
・輸入材については，６月以降益々不透明。先が見えない。価格の上昇が続く。ファンドも影響？
・市場に入荷した物がその週の競りで売れてしまうので，在庫も確保できない。
・大手販売店等が競りに参加し，地元工務店が買えない，必要な材を手当てできない。
・地元の製材工場に必要な径級の丸太が不足している。

２）建築分野からの主な意見

・国産材を主に使っている工務店は最初の影響は少なかった。木材の購入費用は１割程度上がった。住宅の供給は続けている。しかし，夏以降はまったく不透明。
・輸入材や集成材を利用している工務店は，資材不足の影響を強く受けている。着工ができない例もある。コストは２～３割上昇している。同じく夏以降の資材供給はまったく分からない。
・国産材に切り替えたくても，国産材も品不足などで直ぐには切り替えられない。
・施主様との８月以降の契約が滞っている。横架材等の輸入材の見積もりができない状況。
・全般的に納期の遅れ，住宅資材の調達が困難になったことから工期に影響が出ている。
・価格の上昇等に対する，住宅の施主様やユーザー様への転嫁の有無の問題
・今後の新築物件に大きな影響が出てくるのではないか。
・住宅資材としての外材に偏っている横架材や土台などの構造材を中心に厳しい状況である。
・これらの代替え品を求めることも，また大変な状況である。
・「ウッドショック」という言葉だけ先行していて，お客様が不安がっている。正しい情報をできるだけ早くお客様に届けていかなければならないのではないかと思う。住宅の着工件数にも影響する。
・集成材やベイマツが入らないので，大型の物件になると，構造の検討段階で木造から鉄骨や RC 造への変更している物件も見受けられる。
・一方，国産材を見直す良い機会だとも考えている。今まで輸入材に頼っていたが，日本の木材の

生産や流通をもう一度見直して，国内でもしっかりと適正な価格で木材供給できるようになればと思っている。

３）木材加工分野からの主な意見

・影響が出始めている。特に今年の秋口に向けて，丸太の手配などを非常に心配している。
・今回出席している製材工場は皆，フル稼働である。
・製品ニーズとしては，乾燥材や集成材，JAS 材などの品質のしっかりした物にある。
・逆に品不足で未乾燥材等が住宅資材に出回ることによる，クレーム等の発生のピンチでもある。
・供給のボトルネックは人工乾燥機の不足にあると思われる。
・施設整備と人材育成は直ぐにはできない。ビルダーや工務店の皆様に長期的な視点で，支えていただけなれば，また同じことを繰り返してしまう。
・日本は世界の木材流通において，プライスリーダーではなくなった。買い負けをしている。
・その中で，ピンチをチャンスに変えることへの期待。良い機会。世界におけるスギ材の見直し。
・川上から川下まで連携してサプライチェーンの見直し，山元へしっかりとお金が還流して，再造林していくという形が形成され，森林資源がこれからもしっかり回っていくようにする。
・現状を直ぐに変えることはできなが，今後このようなことが少しでも緩和できるよう，植林，育林から木材がきちんとした規格や品質で使われるまでのサプライチェーンづくり，環境に対する貢献をする業界として皆さんと話し合って成長できたらと思う。

４）山林分野からの主な意見

・森林資源が充実していく中，ウッドショックにより急激に増産を依頼されても，計画的な問題や時期的な問題，規格的な問題で，全てのニーズに応えられない状況にある。
・戦後植林した木が 50～60 年生になり，資源は充実しているが，輸入材等の影響により山元の立木価格が低下し続け，再造林の経費が得られず，作業道等も作れず，働き手もいないので，今以上に丸太が出てこないのが現状。
・我々は安いからといって海外の物に頼ってきた。今，充実した国内の森林資源をどのように使っていくのか，SDGs が求められる今日において，日本の山林をきちんと適切に森林管理していく基盤作りや山から工務店，消費者等までのネットワーク作りを，このウッドショックを機会に皆で考えていければ良い。
・県内の丸太の出材量，販売量は減っていない。ここ 3 年間と同量を出している。
・製材用の A 材の丸太だけを生産することはできない。山で伐採を行えば，合板用のＢ材もチップ用のＣ材も出る。生産量はＢ材が多くなる。供給先のバランスも大切。
・分収契約等で森林を管理している民間団体においても，充実した森林資源の利用を進めるため，複数年の入札箇所の事前公表や素材生産事業による丸太の販売など，新しい取組を進めている。
・国有林においても，需要に応じて弾力的に立木販売等を行っている。
・川上から川下までの連携。国有林と民有林の連携など，情報を密にする。

５）意見交換

建築分野

・これからの経済状況で住宅着工数がどのようになるか全く分からないが，もし県内の森林から供給される材料が増やせないであれば，新築からリフォームなどに切り替えていくことも必要ではないか。

・その中で上手く木を使いながら木を伐っていくなどしないと，諸問題が解決されず，このまま平行線で終わってしまうのではないかという心配がある。

山林分野

・これから 20 年すると 80 年生の木が主流になる。量としては増えていく一方である。

・これらの大径材をどう使っていくかというところで，相談していった方が良いのではないか。

・現在の住宅の横架材等は輸入材がほとんどであり，この横架材等をスギで出来ないかなど，供給側でも検討できることはあるのではないかと考えられる。

・山側は，今，急に丸太を出せといわれても出せないのは，梅雨などの季節の問題がある。秋から春先が木を伐る時期になる。それ以外の期間は山の整備作業を行っているので，丸太の値段が上がったといわれても人の手配がつかない。

・一方，皆様の協力により丸太の値段があがれば，山で作業する人も増えて技術者も育ち，高給を取って山の作業に入れれば，なお一層供給能力は上がっていくと思うので，ご指導願いたい。

建築分野

・横架材の設計がきちんとできないと大空間に対応出来ない。住宅も基本的には流通材で対応出来るが，20 畳以上の空間を求められた場合は，スパンを飛ばさざるを得ないというのが，設計側に求められている現状。

・そこにスギ材などを用いるのであれば，それに耐えうるものを開発いただき，順次使っていくことと考えたい。

加工分野

・先ほどの情報報告の中で，木造から鉄骨や RC 造に変更している案件もあると報告があったが，現状の価格で木材が手に入るのであれば，木造を選ぶのか？

建築分野

・時代の流れが木質化しているので，木造を選ぶ。できるだけ木材を使いたい。

・鉄骨も値段が上がっている。できれば木造でやりたい。

・大スパンになると鉄骨が有利。

加工分野

・横架材等の話の前に，住宅 1 棟当たりの県産材，スギの利用率を上げるべきではないか。

・なぜ，垂木や筋交いなど，スギ材でまかなえる部分が外材でなければならないのか。

・今の製材工場は人工乾燥材を供給している。未乾燥のグリーン材は住宅のクレームの原因にな

る。
・外材ではなく，人工乾燥したスギの垂木，筋交い，間柱，野縁，胴縁を使うべきではないのか。
・これらの資材を使わないと，スギ丸太から生産できる部材が無くなり，丸太の需要が減り，伐採量が減り，山で働く人が居なくなる。
・ウッドショックになったからすぐに丸太を出せと言われても，今の老朽化した態勢では，いくら林業機械を入れても，丸太は出てこない。
・伐採時期があるのは，日本だけではなく，ヨーロッパやアメリカも同じ。海外でも計画に基づき伐採可能時期に伐採を行い，丸太にして在庫している。
・工務店等から提供される図面を見たときに部材に「スギ」の記載が少ない。今は土台もスギで供給できる。
・オイルショック後に外材が大量に安く輸入され，国産材から外材にシフトし，価格競争が 50 年以上続いた結果，スギを使った大工さんがいない，スギの垂木を使う人がいないという状況。
・ウッドショックで外材の垂木がないので，こちらからスギの垂木にしてくださいとお願いしているのが現状。
・我々が扱っているスギ材は外材の代替えにしかならないのか？
・もっとスギを日本でスタンダードに使って，強度的に必要なところは，別な樹種を用いる。そのために，外材を代替材に使うという考えが必要ではないか。
・このままでは，ウッドショックは何回でも来る。その度に苦しい思いをする。もっと木造住宅 1 棟に対するスギ材の割合を高めていって欲しい。
・住宅で使う構造材の量と羽柄材の量は半々である。スギの羽柄材を使えるところはもっとある。スギをたくさん使って欲しいという思いがある。
・スギを好んで使っていただける環境を目指して行ければ，安定して山にも力が注げる。

建築部門
・構造上，必要以上に強度等を求められない場所もある。そのようなところに積極的にスギ材を使っていきたい。
・製材工場との情報交換の必要性を感じた。

流通部門
・このような会議ができて大変うれしく思う。
・木材もようやく国際化したと実感できた。山林経営者の方も認識していただきたい。
・いままで日本が一番高かった。だから，米国からも欧州からもロシアからも木材が入ってきた。
・安くなれば，日本には見向きもしない。
・山林経営も 40 年，50 年もかかる。その中で今日のような話をお聞きになって，こんな感じで行ったら日本の木材も何とか大丈夫と感じて欲しい。外材も国産材も同じ木材である。

県の考え等（林業振興課長）
・私たちの立場は，林業を振興していきたいという立場であることをまずは，ご理解願いたい。
・現在，素材（丸太）の価格が上昇傾向にある中で，山元つまり森林所有者に，しっかりとその利

益を還元していって，伐採跡地の再造林がしっかりと進んで，森林がまた再び造成，維持されていくということが，資源循環の観点から望まれることであると思っている。

・従って，国産材の価格が，適正に評価されるということは，林業が今後も持続的に成長発展していくことでは，おそらくプラスに働くことと思っている。

・ただ，国産材を利用するにあたり，製品を単に輸入するのとは異なり，即座に流通させることが難しいという点を需要先としっかりと共有していくことが大切である。

・山側が注文を受けてから素材を供給するまでには，２～３ヶ月かかってしまうことや，その後，製材・乾燥の時間も必要など，いわゆるリードタイムが発生する訳であるので，その辺を需要先と供給先との間で共通認識を持つ必要があると考えている。

・加えて，素材一本をどう使い切るか，ということに関しては，製材品以外のバイオマス利用ということに着目して，バイオマスにもしっかりと価値を付けて山側へ返していくことを進めていく必要があると考えている。

・いろいろ課題はあるが，このような場を通じて，川上から川下までの連携がより一層深まって，本格的に伐採の時期を迎えた県内の森林資源の利用が進むとともに，木材使用量に占める県産材のシェアが高まることこそが，重要であると認識している。

・今後も皆様のお力をいただきながら，進めて参りたいと思っているので，よろしくお願いしたい。

以上

＜実施状況＞

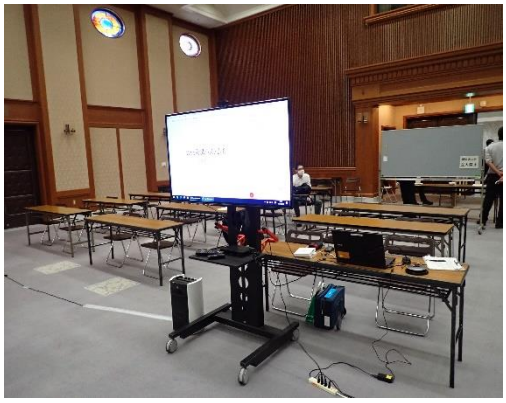
各団体代表者（発言者）：写真中央テーブル

各団体代表者（随行者）：写真外側テーブル

髙橋技監：あいさつ，意見交換会の座長

受付・検温・消毒

マスコミ・傍聴（県職員）



Web 併用